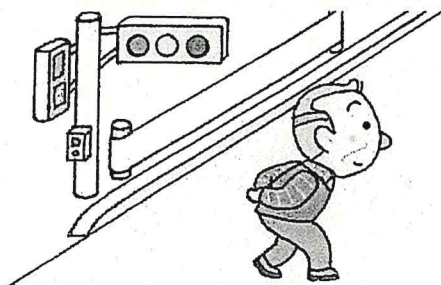


歩行中の事故を防ぐ!

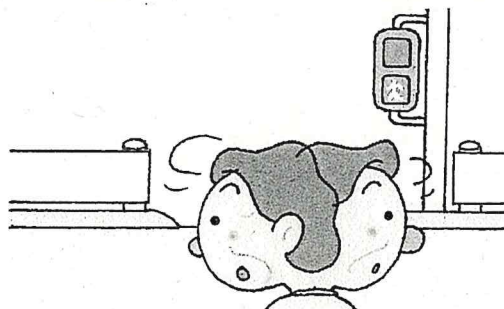
死亡事故でいちばん多いのが、歩いているとき事故に巻き込まれるケースです。自分では車を運転しないという人も、常に交通事故の危険があることを頭に入れておきましょう。

必ず信号や横断歩道を利用する



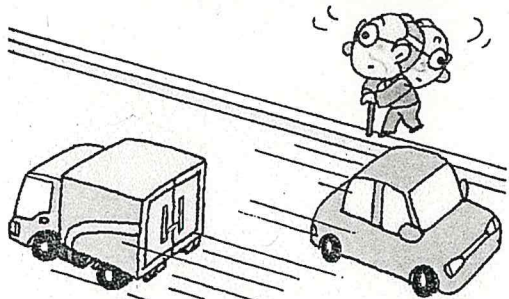
道路を渡る時は少し遠回りであっても、信号機のある場所か、横断歩道を渡るようにしましょう。

青信号でも安全確認をする



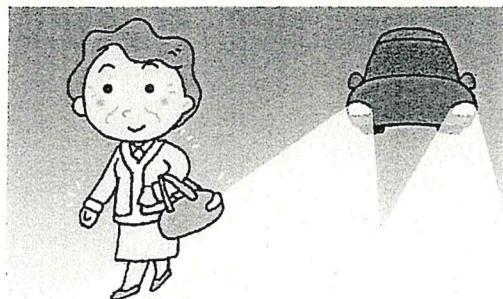
信号が青であっても、油断は禁物です。周囲をよく見渡して、右折・左折してくる車やバイクなどに注意しましょう。

車の直前直後の横断は避ける



やむを得ず横断歩道がない道路を渡るときも、車の直前直後の横断は危険。死角になって見えない車が近づいてくることがあります。

夜間は反射材を身につける

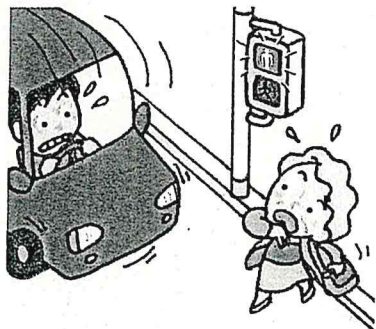


夜間は、ドライバーが歩行者を見落としてしまうケースが多いもの。なるべく明るめの服を着て、洋服やバッグなどに反射材をつけましょう。



信号無視は絶対にやめましょう

「ちょっと信号無視するくらい大丈夫」と思っていませんか？ 信号無視が重大事故につながるケースは決して少なくありません。歩行者用の青信号が点滅を始めたときも無理をせず、次の青信号まで待ちましょう。高齢者は歩行速度が低下していて、思った以上に横断に時間がかかることがあります。



交通事故の多くは自宅近くで起きています

高齢者の交通事故の25%は、自宅から半径100メートル以内の場所で起きているというデータがあります。最近はカーナビゲーションの普及により、狭い道路でも抜け道などに利用されるケースが増えています。「慣れている道だから」と安心せずに、常に周囲の状況を気にかけるようにしましょう。